



ことば遣いのマナー本から見る言語行動規範の日韓 対照

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-04-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金, 知垠 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00017672

ことば遣いのマナー本から見る言語行動規範の日韓対照

金 知 垠

1. はじめに

他人とのコミュニケーションにおいて「あいさつをしなさい」「間違った敬語を使ってはいけない」などといった言語行動に関する認識がある。この認識は一部その社会の構成員の中で通念化し、それを守らないと対人関係に悪影響を及ぼすことがある。そして、言語行動規範のあり方は言語集団や社会によって異なる。そのため、言語行動規範の相違は異文化コミュニケーションにおいて誤解や摩擦の要因となりうる。

実用書の中にはことば遣いや話し方に関するもの（以下、ことば遣いのマナー本）があり、会話において「こうすべきである」「こうすべきではない」といったことば遣いのマナーや話し方について述べられているものが多い。そこで述べられているのは、調査やデータの分析などによるものではなく、実態と異なる可能性がある。しかし、販売を目的とする出版物は一般読者に共感される必要があり、ことば遣いのマナー本の内容にはその言語社会の言語行動規範が反映されると考えられる。

そこで本研究は、日本語と韓国語のことば遣いのマナー本を通して推定される両言語の言語行動規範を比較し、その相違点を明らかにする。そして、両言語の言語行動規範の相違を通して、日韓母語話者間の接触場面で相手に違和感や不快感を与え、誤解や摩擦の潜在的要因になりえる言語事象を見出すことを目的とする。

2. 言語行動規範に関わる先行研究

尾崎（1996）は、発話がもたらす対人的影響・対人効果という側面

を調べるため、新聞の投書欄をデータとして用いている。新聞の投書欄をデータに用いた理由は、「発話」とそれによる「対人効果」というデータを比較的容易に得ることができるためである。具体的には「××した時、〇〇さんから<……>と言われて△△だった」という発言のように、発話およびそれがもたらした対人関係上の効果について、比較的明示的に書かれたものをデータとして収集している。そして、日常生活における発話を、その機能とそれがもたらす対人効果がプラス的还是かマイナス的かという方向性で分析している。

尾崎（1996）は、新聞の投書をデータに用いたことに対して、「日常生活においては対人的インパクトがさほど大きくない発話も当然行われているが、投書から得られるデータは…省略…インパクトの強いものであると言える。また、いかなる内容の投書を採択するかという編集者側の方針も、得られるデータに偏りをもたらす。ここで得られたデータは、こうした提供者・採択者の選択のプロセスを経たものであり、従って日常の言語生活の縮図を現しているわけではなく、かなり片寄りのあるデータである」と断っている。

西尾（2000）は、言語行動には「行うべき（遂行義務）」ことと「行うべきではない（回避義務）」ことがあるとしている。そして、エッセイ類・自然談話・落語・小説など様々なジャンルから、「〇〇と言え（言った方が良い）」「××を言うな（言わない方が良い）」など、言語行動に対して「行うべき」「行うべきでない」という評価が明示されている事例、または「しょうもないこと言いやがって。憎らしい」など、何らかの言語行動に対して悪い評価が明示的な事例や、何かを言った（言わなかった）ことで対人関係や集団に影響が生じている事例をデータにし、遂行義務・回避義務の言語行動を遵守・違反したときに生じる集団への影響を考察している。

西尾（2000）の研究は、言語行動の影響・効果をプラス・マイナスと二分する状況から抜け出し、言語行動に対する規範について考察する際の分類枠を提示している。しかし、取り上げている事例が単片的であり、そこに表れた遂行義務・回避義務が実態とは異なる可能性が

ある。

増田 (2011) は、1950年から2009年に出版されたことば遣いのマナー本の内、本のタイトルや前書きなどで、女性に対してであると明示されているものや、本文の記述が女性に対して示されているものを対象にし、1対1で会話を行う場面を中心に扱った書籍を選んで調査を行っている。そして、ことば遣いのマナー本の出版年代によって、女性に対する言語行動の規範がどのように変化したのかを調べている。

増田 (2011) の研究は、ことば遣いのマナー本から言語行動規範の変化を調べているが、言語行動主体を女性に限定したデータであり、やはり実態を調べたものではない。

以上は、言語行動規範に関わる研究であるが、言語行動規範を調べることは、コミュニケーションにおいて潜在的な誤解や摩擦になりえる言語事象を見出す手がかりになると考えられる。

また、先行研究では新聞の投書や、エッセイ類・自然談話・落語・小説、マナー本など、様々なジャンルをデータにしている。新聞の投書は言語行動がもたらした対人効果は示されているものの、その言語行動に対する評価も明示されているとは限らない。また、エッセイ類・自然談話・落語・小説などでは、言語行動に対する評価のデータが限定的である。

いっぽう、ことば遣いのマナー本ではある言語行動に対する評価が明示されることが多いため、そこから推定される言語行動規範を日韓で比較することが容易である。そして、ことば遣いのマナー本ではコミュニケーションにおいて問題になりやすい言語行動が多く言及されており、誤解や摩擦の潜在的要因になりえる言語事象を見出すことに適すると考えられる。

そこで本研究は、先行研究のデータ収集や分析方法などを踏まえ、言語行動主体の性別に関わらず、日本語と韓国語のことば遣いのマナー本を対象にしてデータを収集し、分析・考察を行う。

3. 調査資料と分析対象

3.1. 調査資料

ある言語社会では円満な対人関係を保つため、ことば遣いにおいて「こうすべきである」あるいは「こうすべきではない」といった認識がある。本研究は、一般向けに出版されたことば遣いのマナー本の中でも、円満な対人関係のために規範的であると思われる言語行動について述べられているものを資料にする。

資料は、なるべく現時点に近い言語行動規範を推定するため、2000年以後の出版物に限定し、内容に偏りがないように、著者を重複せず収集した。収集資料は日本語が24冊（2000年代9冊，2010年代15冊），韓国語が22冊（2000年代14冊，2010年代8冊）であり、資料については稿末に詳細を記す。

3.2. 分析対象

言語行動には対面でのものと、電話やメールなど媒体を介するものがあるが、本研究では対面での言語行動のみ分析の対象とする。そして、対面での言語行動において「こうすべきである」あるいは「こうすべきではない」という趣旨が述べられている用例をデータとする。

3.2.1. 用例収集の基準

ある言語行動への遂行義務・回避義務とその必要性、あるいはその言語行動が対人関係に及ぼす影響が文面に表れている用例を収集した。収集された用例は、日本語が415例、韓国語が311例であり、全ての用例は以下A～Eのいずれかに分類されることが分かった。以下A～Eの内容と収集基準となった記述について説明する。そして、括弧の中にはそれぞれに該当する用例数を記す。ただし、一用例に複数の記述がされている場合は重複して用例数を数えた。

A. 特定言語行動を行う／行わないことを推奨したり、良し悪しを評価したりする〔日262/415例（63.1%），韓230/311例（73.9%）〕

ある言語行動を義務や必要性からその言語行動をするように、あるいはしないように推奨する。また、その言語行動に対する良し悪しの評価をする。これらの内容は以下のように記述される。

例) Vべきだ/Vべきではない, Vようにする/Vないようにする, Vことだ/Vないことだ, Vてほしい/Vないでほしい, Vたほうがいい/Vないほうがいい, Vてください/Vないでください, Vなければならない, Vてはならない, Vよう, Vといい, Vこと (N) を勧める/V避ける, Vこと (N) が大切・大事・重要・必要だ, Vこと (N) に注意・留意する, Vこと (N) はいい/よくない
……

B. 特定言語行動によって相手の感情や意識に肯定的/否定的な影響を与える〔日126/415例 (30.3%), 韓81/311例 (26.0%)〕

ある言語行動をすることで、相手の感情や意識に肯定的あるいは否定的な影響が引き起される。これらの内容は以下のように記述される。

例) 聞き手が肯定的/否定的な感情・意識を感じる・持つ・抱く, 聞き手が愉快/不快に思う, 聞き手に好かれる/嫌われる, 聞き手に誤解される, 聞き手を傷付ける, 聞き手の気分を害する, 聞き手に親密感/反感を招く……

C. 特定言語行動によって話し手が肯定的/否定的な印象や評価を受ける〔日56/415例 (13.4%), 韓23/311例 (7.3%)〕

ある言語行動をすることで、話し手が肯定的あるいは否定的な印象を受けたり、肯定的あるいは否定的な評価をされたりする。これらの内容は以下のように記述される。

例) 肯定的/否定的な印象を持たれる/持たれない, 肯定的/否定的な印象を与える, 肯定的/否定的に見られる・思われる・受け取られる, 肯定的/否定的な評価を受ける……

D. 特定言語行動によって対人関係に肯定的/否定的な影響が生じる

〔日32/415例 (7.7%), 韓19/311例 (6.1%)〕

ある言語行動をすることで、人間関係に肯定的あるいは否定的な影響を与えたり、肯定的あるいは否定的な結果をもたらしたりする。これらの内容は以下のように記述される。

例) 人間関係が深まる／壊れる, 人間関係をよく／悪くさせる, トラブル・問題を抱える・起こす, 人間関係に肯定的／否定的な効果がある, 人間関係を円滑にする／しくじる……

E. 特定言語行動がモラルに適合する／適合しない〔日99/415例 (23.8%), 韓50/311例 (16.0%)〕

ある言語行動をすることがモラルという側面から適切であったり、不適切であったりする。これらの内容は以下のように記述される。

例) 失礼・無礼にあたる, ルール・マナー／ルール・マナーの違反である, 非常識・迷惑・間違いである, タブー・禁物・禁句である, 常識・礼儀・基本・原則・エチケットである, 配慮・思いやり・気ばたらき・心得・身だしなみである……

3.2.2. 日韓で比較する用例

分析の対象はA～Eのような用例の中でも、ある言語行動に対して日韓で違う内容が見られるものに限る。つまり、両言語においてある言語行動が異なる評価や印象が受けたり、それによって異なる対人効果や影響が生じたり、異なる助言がされたりしている用例のみ扱う。

3.2.3. 分析の枠組み

収集された用例の言語行動においては、語の選択や使用、発話機能や発話行為、会話・談話など、様々なレベルにかける内容が見られる。次節からは、日韓で異なる内容が見られる用例の言語行動を、語・発話・会話に関わる内容に分けて分析を進める。

4. 語に関わる言語行動の規範

この節では語の選択や使用など、語に関わる内容を見ていく。語に関わる内容の全ての用例の中で日韓に相違が見られるのは、「若者言葉」と「方言」, 「呼称」に関するもののみであった。4.1では日本語における「若者言葉」, 4.2では韓国語における「方言」, 4.3では「呼称」について、両言語でどのような違いがあるかを見る。

4.1. 日本語における若者言葉の使用

両言語のことば遣いのマナー本では専門用語, 業界用語, 漢語, 外来語, 卑語, 俗語, 流行語は控えるべきことばとして言及されている。専門用語, 業界用語, 漢語, 外来語は相手が理解しにくく, 円滑なコミュニケーションを妨げるため, 使用しないことが推奨されている。

そして, 卑語, 俗語, 流行語も話し手が否定的な評価を受けるため, 使わないようにしているが, その中でも, 日本語のことば遣いのマナー本では特に若者言葉が取り上げられている。

(1) ビジネスシーンで学生言葉やバイト語を使うことは, 取引先など相手の信頼を損ねるだけでなく相手によって不快な気持ちにさせてしまいますので極力避けるように心がけましょう。

[言い方・伝え方]

(2) 「超」「やばい」などの若者言葉は, 友達同士で使う分にはかまいませんが, ビジネスシーンにはふさわしくありません。

うっかり出てしまわないよう, 日頃から社会人にふさわしい言葉遣いを心がけることが大切です。

[大人のマナー]

(3) また, 近年問題視されているのが「若者言葉」。「食べれない」「来れない」などのいわゆる“ら抜き言葉”は, 間違っただけでなく広く浸透してしまった一例ですが, 正しい日本語を使う人にとって

は、やはり不快に思うことが多いのも事実。ビジネスシーンだけでなくプライベートにおいても気を抜かず、正しい敬語使い・言い回しを心がけましょう。

[ビジネスマナー]

(1)～(3)はその例であるが(下線は筆者による。また用例の出典は略称で表記し、詳細は稿末に記す。以下同様)、(1)(2)では、特に社会人という立場から、ビジネスシーンにおける若者言葉の使用を極力避けるようにしている。そして(3)では、ビジネスシーンだけでなく、プライベートでも使わないようにとしている。これらは若者言葉の使用に対する否定的評価から、日本語における若者言葉の位相がうかがえる用例である。

いっぽう、韓国語のことば遣いのマナー本でも、卑語、俗語、流行語の使用を控えるべきとしているが、日本語の若者言葉のように、特定世代によることば遣いに関する言及は見られない。

ちなみに、日本語の「若者言葉」を韓国語に訳すと、「若者や青少年に使われる新造語・流行語・隠語」などになる。つまり、韓国語では日本語の「若者言葉」が指すものと同様の語彙カテゴリーがないと言える。そのため、韓国語のことば遣いのマナー本で「若者言葉」の言及が見られないと考えられる。

4.2. 韓国語における方言の使用

日本語のことば遣いのマナー本では若者言葉が否定的な評価を受けることばとして取り上げられているが、韓国語のことば遣いのマナー本では方言が控えるべきことばとして取り上げられている。

(4) 말을 할 때는 정확한 발음, 밝은 목소리, 적당한 속도, 적당한 음의 고저를 유지하고, 심한 사투리, 속어, 비어, 유행어는 삼가야 한다.

[話すときには正確な発音, 明るい声, 適当な速度, 適切な声のトーン]

ンを維持し、強い方言，俗語，卑語，流行語は慎むべきである。]

[現代社会とマナー]

(5) 말을 잘한다는 것에는 알맞은 표준어를 선정하여 그것을 정확하게 발음하는 것이 포함된다는 것을 잊지 말자. 공적인 자리에서 표준어를 잘 선택하여 쓰고, 또 그것을 정확히 발음해야 말을 잘한다는 소리를 들을 수 있고, 또 교양인이라는 평도 받을 수 있다.

[話し方が上手ということには、適切な標準語を選定し、それを正確に発音することが含まれていることを忘れないようにしよう。公的な場で標準語をよく選択して使い、またそれを正確に発音してこそ、話し方が上手と言われ、教養のある人という評価が得られる。]

[ことばが人格だ]

(4) を見ると、俗語，卑語，流行語，隠語，外国語などと共に方言の使用に注意を払うようにとしている。また (5) を見ると、標準語の使用への肯定的な評価から、方言の使用は肯定的に評価されないことが察知できる。

(6) その点，訛った言葉で話しかけてくる人には，その人らしさがある。さらに，気を許してくれているんだなと思い，ついうれしくなって，話がはずむ。お互いの関係が近くなったようにも感じる。

[会話術]

それに対し、日本語のことば遣いのマナー本では (6) のように、むしろ方言の使用に対する肯定的な側面が言及されており、韓国語のことば遣いのマナー本での方言に対する評価と対照的である。

4.3. 異なる呼称の使い方

相手をどのように呼ぶかは、対人関係において敏感な問題である。そのため、両言語のことは遣いのマナー本で呼称は重要視され、その使い方に重点をおいた説明が多く見られる。

日本語と韓国語には似たような呼称が多い。しかし、似ているからとはいえ、それが相手の言語でも適切な呼び方になるとは限らない。その代表的なものが役職名である。

(7) 社内では、上司の名前の下に役職名をつけて「〇〇課長」などと呼ぶのが一般的ですが、役職名はそれだけで敬称になるので注意が必要です。

[大人のマナー]

(8) 기본적으로 사장·부장·과장과 같은 호칭의 장(長) 자에는 기본적으로 존대의 의미가 포함되어 있다. 따라서 원칙적으로는 ‘님’ 자를 붙이지 않는 것이 맞다. 그러나 요즘은 그 의미가 퇴색하여 ‘님’ 자를 붙이지 않으면 오히려 반말처럼 들린다는 것이다. …생략…

이렇듯 호칭은 시대에 따라 변화한다. 호칭에 대한 변화는 시대의 흐름과 함께 자연스럽게 자리잡은 문화로 이해하고 대세에 따르는 것이 현명할 듯 싶다.

[基本的に社長・部長・課長のような呼称の‘長’には敬称の意味がある。したがって、原則的には‘様’をつけないのが正しい。しかし、最近はその意味が薄まれて‘様’をつけないと、かえってタメ口のように聞こえるというのだ。…省略…

このように呼称は時代によって変わる。変わった呼称は時代の流れとして受け入れて従うことが賢明だろう。]

[競争力]

(9) 직장 상사는 직함이 있는 경우 ‘과장님’, ‘부장님’ 이라고

부르는 것이 원칙이다. …생략… 그러나 나이가 어리다고 해서 아랫사람을 ‘준기야’ 나 ‘김씨’ 와 같이 함부로 불러서는 안 된다. [職場の上司は役職がある場合, ‘課長様’, ‘部長様’ と呼ぶのが原則である。…省略…だが, 年下だとして目下の人を呼び捨てにしたり ‘金さん’ のように無作法に呼んだりしてはならない。]

[ことばが人格だ]

(7) を見ると、日本語のことば遣いのマナー本では役職名はそれ自体が敬称になると述べられている。そして、韓国語のことば遣いのマナー本でも (8) のように、役職名は敬称であったが、最近では敬称の意味が薄れ、「님 (様)」をつけないと、ぞんざいに聞こえるという説明がある。したがって、役職名に「님 (様)」つけるのが良いと助言されている。なお (9) では、「役職名+님 (様)」と呼ぶことが正しいとされている。これらの用例からは韓国語の役職名の使い方に対する規範の変化が見られる。

また、両言語で似ている呼称に日本語の「さん」と、韓国語の「씨 (氏・さん)」が挙げられよう。しかし、この「さん」と「씨」の使い方も両言語のことば遣いのマナー本で違いが見られる。

(10) 後輩や部下を呼ぶときについつい学生時代の延長線で「加藤君」などとクンづけしたくなりますが, 「さん」づけのほうがベター。

[言い方・伝え方]

(11) 年上の相手だが社歴は自分が上という場合も, 「君」にするか「さん」と呼ぶか迷うところである。

問題になりそうな時はすべて, 「さん」で呼ぶとよい。序列の上の者が下の者を「さん」と呼んで悪い理由はない。また, 上の者から「さん」と言われて悪い気のする人間はいない。

[最強の話し方]

まず、日本語のことは遣いのマナー本は、(10)に後輩や部下を呼ぶときに「さん」づけで呼ぶことはもちろん、(11)に相手が年上であっても呼び手が上位者であれば、「さん」づけが良いとしている。つまり、日本語の「さん」は目上にも使えて使用範囲が広い。

しかし、韓国語のことは遣いのマナー本は、(9)に相手が年下でなおかつ目下であってもむやみに「姓+씨(氏・さん)」を使ってはいけないとされている。もし、「さん」と「씨」の待遇度が等価であると理解していると、韓国語母語話者は目下の日本語母語話者に「さん」や「씨」で呼ばれ、不快感を覚えたり戸惑ったりすることもある。

そして、相手を呼ぶ時どのような呼称を選択するかも両言語のことは遣いのマナー本にやや異なる面が見られる。

(12) この点、徹底しているのが欧米人で、彼らと話すと、会話のはしばしにうるさいくらいこちらの名を呼ぶ。これも、お互いに名を呼びあうことで親近感を高めることができると、彼らが知っているからだろう。

日本人同士の場合、そこまでする必要はないかもしれないが、「〇〇さんはどうお考えですか」「そうではありませんか、〇〇さん」など、会話の中にさりげなく相手の名まえをはさみこむようにするのも、初対面の気まずさを取りのぞくための気ばたらきといえよう。ただし、目下の者が目上の人を名まえで呼ぶと失礼だと思う人もいるので、その点は注意が必要だ。

[気ばたらき会話術]

(13) ‘아줌마’, ‘아저씨’, ‘그쪽’, ‘거기 안경 끼신 분’ 등의 가벼운 호칭을 삼가라. 상대를 아주 낮춰서 중요도 없이 부르는 말이다. …생략… 가능하면 상대의 이름과 호칭을 많이 불러주는 것이 좋다.

〔‘おばさん’, ‘おじさん’, ‘そちら’, ‘そのメガネかけている方’などの気安い呼称は慎もう。相手を見下して待遇しない呼び

方である。…省略…できれば相手の名前と呼称を多く呼んだほうがいい。]

[うまい話し方]

(14) 대화를 하면서 “이명수 씨는”, 혹은 “김 부장님은” 이라는 호칭을 자주 넣어 불러 주면 친밀감을 느끼게 된다. 친밀감은 서먹한 마음을 푸는 데 아주 효과적이다.

[会話をしながら “イ・ヨンスさんは”, または “キム部長様は” という呼称を頻繁に読んであげると親密感を持つようになる。親密感をぎごちない雰囲気のを和らげるにとっても効果的である。]

[あっさり言う人]

日本語のことば遣いのマナー本では, (12) に名前を呼びあうことで親近感を高めると述べられ, 相手に対する配慮として相手の名前を呼ぶことが勧められている。そして, 韓国語のことば遣いのマナー本でも, (13) に相手の呼称に名前を使うことが勧められている。

ところが, 日本語のことば遣いのマナー本では名前を呼称とする場合のみ肯定的な言及がある。それに対して韓国語のことば遣いのマナー本では (13) (14) のように, 呼称の使用自体が対人関係に肯定的な効果を生むため, 名前に限らない呼称の多用が促されている。

(15) 사회에서 만나는 사람과도 친근감을 갖고 좋은 관계를 유지하려면 상대의 이름과 직급을 기억해두어야 한다. 이름과 직급을 모르면 상대에게 ‘저기요’ 라는 애매한 표현을 쓰게 되어 상대는 거리감과 부정적인 마음을 갖게 될 수 있다.

[社会で付き合う人とも親近感を持っていい関係を維持するためには, 相手の名前と役職を覚えなければならない。名前と役職を知らないと相手に ‘あの…’ という曖昧な表現をすることになり, 相手は距離感と否定的な気持ちになりかねない。]

[一言]

(16) 하지만 사실 누군가가 나를 ‘저기요’ 하고 부르면 기분이 유쾌하지는 않다. 전혀 모르는 사람에게 길 안내를 부탁할 경우라면 어쩔 수 없겠지만 알고 지내는 사이라면 상대방의 호칭을 정확히 불러주는 것도 지켜야 할 매너 중의 하나이다.

[ところが、誰かに自分が ‘あの…’ と呼ばれたら愉快ではない。 赤の他人に道を教えてもらう場合なら仕方ないが、知り合いなら 相手の呼称を正確に呼ぶのも守るべきマナーの一つである。]

[競争力]

また、呼称の多用と共に、韓国語のことば遣いのマナー本では的確な呼称の使用が求められる。

(15) (16) を見ると、韓国語は相手に呼ぶ時「저기요 (あの…)」のように相手を明確に指し示さない表現は、相手に距離感を与えたり、相手を否定的な気持ちにさせたりするため、はっきりした呼称を使うことがマナーとされている。

韓国語のことば遣いのマナー本では呼称の多用が推奨され、呼称で相手を明確に指し示すことが規範的とされており、日本語のことば遣いのマナー本とは異なる事情が見られる。

5. 発話に関わる言語行動の規範

この節では発話に関わる内容を見る。発話に関わる全ての用例を発話の機能によって分類したが、その中で日韓に相違が見られるのは、「依頼」「断り」「ほめ」の発話行為のみであった。5.1では「依頼」と「断り」について、5.2では「ほめ」について両言語の異なる面を見ていく。

5.1. 「依頼」と「断り」について

依頼することは相手に負担をかける行為であり、断ることは相手の気分を害する可能性があるため、対人配慮が必要な言語行動である。

まず、依頼の言語行動において、両言語でどのようなことが述べられているか見る。

(17) 「～してください」という言葉は丁寧な言い方のようでも、言われた側からすれば「～しろ」と命令されたような気になるもの。「～していただけますか」と依頼・質問形にし、決定権を相手に委ねるようにするとカドが立ちません。

[ビジネスマナー]

(18) 「～해라」, 「～하지 마요」식의 명령하는 말투는 지양하고, 「～는 어떨까요?」, 「～를 해볼까요?」 등의 의문문 청유문을 사용한다.

[「～しろ」, 「～しないでください」のような命令口調はやめ, 「～はどうでしょう?」, 「～してみましようか?」など疑問文・勧誘文を使用する。]

[話し方習慣]

依頼の発話において、日本語のことば遣いのマナー本では、(17)に「～してください」という表現は相手に命令された気持ちにさせると述べられている。また、韓国語のことば遣いのマナー本でも、(18)に「～しろ」「～しないでください」のような表現はやめるように述べられている。つまり、両言語のことば遣いのマナー本とも直接的な依頼表現は避け、相手に選択権を委ねる表現を使うことが勧められている。

(19) 続いて、気配りの言葉を添えてください。例えば、「今、お時間いただいても大丈夫ですか?」という一声をかけてから依頼するのです。

[コミュニケーションマナー]

(20) 「忙しいところ悪いけど」などのクッション言葉を添え、「どんなことを頼みたいのか」「どのようにしてほしいのか」「いつまでにやってほしいのか」を明確に伝えましょう。

〔ビジネスマナー〕

(21) 相手に何か頼む時、単刀直入にお願いするのではややぶしつけな印象です。

お願いの前に「差し支えなければ」の一言を添えれば, ストレートにお願いされるよりも謙虚な印象になり、相手も依頼にこたえやすくなります。

〔大人のマナー〕

ところが、(19)～(21)を見ると、日本語のことは遣いのマナー本では韓国語のことは遣いのマナー本では見られない内容もある。それは本格的な依頼発話に入る前に「気配りのことば」「クッション言葉」を添えることである。つまり、日本語のことは遣いのマナー本では、依頼行動では相手への配慮を示す前置き表現が先行されることが望ましいとしている。このような用例から、日本語では依頼の前に相手への配慮を言語化する必要性が高いと考えられる。

もちろん、韓国語においても依頼の際は相手への配慮が必要であり、前置き表現がないわけではない。しかし、その配慮を前置き表現として言語化する必要性を言及したのは、韓国語のことは遣いのマナー本では見当たらない。それは、韓国語ではことは遣いのマナー本で言及されないほど、依頼における前置き表現は意識に上がりにくいためと考えられる。このような意識の差は、両言語話者の接触場面において誤解や摩擦の潜在的な要因になるだろう。

(22) 「부탁이란 아무리 가까운 사이일지라도 능력이 없으면 들어줄 수 없다. 자신의 능력을 발휘할 기회가 주어진 데다, 부탁을 들어주기까지 그 사람에게 대해서 계속 생각하기 때문에

부탁을 들어주고 나면 각별한 마음이 싹튼다. 관계를 돈독히 하고 싶다면 들어줄 수 있는 부탁을 하라.

[頼み事はいくら親しい間柄でも能力がないと聞き入れられない。自分の能力を発揮する機会が与えられたうえに、頼み事をするまでその人について思い続けるため、頼み事を聞き入れてあげたら格別な絆ができる。対人関係を深めたいなら、聞き入れてもらえる頼み事をしよう。]

[品格のある対話]

反対に、日本語のことば遣いのマナー本では見られなく、韓国語のことば遣いのマナー本でしか見られないものもある。(22)を見ると、韓国語のことば遣いのマナー本では、依頼の言語行動が対人関係を深める手段として提案されている。このような内容は本調査資料の日本語のことば遣いのマナー本では全く見当たらない。

沖ほか(2018)では、「中国と韓国社会には、積極的に依頼しあうことによって人間関係を構築していく互惠関係構築文化があるのに対して、…省略…日本社会には、相手に頼むことからまず始める互惠関係構築文化は無い。自助と、共同体の共助が基本で、個人的な依頼は相手に迷惑をかける行為だと認識されている」と述べられている。

韓国や中国と異なり、日本では依頼行動が対人関係に否定的な影響を与えるという見解である。このような依頼行動に対する対照的な意識の差も、接触場面において潜在的誤解や摩擦の要因となりうる。

(23) 感謝の気持ちをまず言って、「断って申し訳ない」という気持ちを正直に表せば、相手はきっと分かってくれます。

「ありがとう」と感謝の気持ちを言うと、相手には「自分の好意を受け止めてくれた」ということが伝わるので、たとえ断られたとしても気分を害することはないのです。

[あの人が話すと]

(24) 断るとき：お礼から始めると明るい断り方になります。「ご用命いただきうれしく思っておりますが、今回は残念ながら…のためできかねます。次回またお声をかけてください」

〔言い方・伝え方〕

続いて、断り行動においては、相手の意に沿えないことを謝罪すること、断る理由を説明すること、できれば代替案を提案することは、両言語のことば遣いのマナー本で共通する点である。

いっぽう、日本語のことば遣いのマナー本には韓国語のマナー本に見られない内容がある。それは断りの発話に加え、感謝を述べることである。(23) (24) とともに、断る前には誘いに対する感謝の気持ちを伝えることが助言されている。このような内容は韓国語のことば遣いのマナー本では見られなく、断りの際にも相手への配慮を言語化する日本語の傾向が見て取れる。

5.2. 「ほめ」について

ほめるという言語行動は、対人関係を友好に築くのに効果的である。ほめる時は事実に基づいてなるべく具体的にほめ、ほめられた時は謙遜して否定するよりは、感謝のことばを述べるというのは、両言語のことば遣いのマナー本に共通している。

(25) 「目上をほめる・励ます」というのは、そもそも日本の文化ではタブーなのです。

ほめたり、励ましたりすることは、目下のものが目上のものに「上から視線」で接しているということになるからです。

〔会話のしくじり〕

(26) このようなプラス評価のことばも、目上の人を褒めた場合には、「余計な一言」となります。

日本語では、先生や上司のような目上の方が、職業としておこなっ

ていることを褒めてはいけないというルールがあるのです。…省略…あくまで、職業として当然持っているべき技量について評価をおこなうことが日本語としての運用ルールに反しているというだけなのです。

[その一言が余計]

しかし、ほめる相手が目上になる場合には両言語のことば遣いのマナー本に違いが見られる。まず、日本語のことば遣いのマナー本を見ると、(25)に目上をほめることは日本文化ではタブーであり、(26)にプラス評価でも目上をほめるのは「余計な一言」であり、とりわけ職業として行っていることはほめてはいけないと述べられている。

(27) 당신의 칭찬 한마디에 윗사람이 감격할 때가 있다. 아랫사람이 살갑게 건네는 칭찬은 큰 힘이 된다. 물론 체면상 칭찬을 받고도 그 자리에서 좋다는 내색을 하지 않을지라도, 마음속에서는 우선 당신의 배려와 관심에 고마워하고 당신을 눈여겨볼 것이다.…생략…확실히 칭찬할 만하다고 생각하면 상사라도 아낌없이 칭찬하라.…생략…능력에 대한 칭찬이 아니라, 당신이 받은 혜택을 위주로 말하라.

[あなたのほめ言葉に目上は感動することもある。目下の丁寧なほめ言葉は大きな励ましになる。もちろんほめられても目上という立場ゆえ、その場で嬉しがる様子はないかもしれないが、心ではまずあなたの配慮と関心にありがたがり、あなたを思うようになる。…省略…はっきりほめる価値があると思うなら、上司に対しても惜しまずほめよう。…省略…能力に関してではなく、あなたがもらった恩恵についてほめよう。]

[うまい話し方]

(28) 상사에게 칭찬할 때는 신중해야 한다. 상사도 칭찬에 굶주려 있지만 권위를 중시하다 보니, 아랫사람에게 칭찬받아도 권위를

손상시킬 수 있는 칭찬이라고 판단되면 오히려 화를 내기도 한다. 따라서 입에 발린 칭찬이나 과장된 칭찬보다는 “얼굴이 환하세요. 요즘 무슨 좋은 일이라도 있나요?”, “피부가 참 좋으세요. 피부관리 쉽지 않은데 무슨 비결이라도 있나요?”와 같은 소소한 칭찬이 바람직하다.

[上司をほめるときは慎重にならないといけない。上司もほめられたがるが、権威を重視するがため、目下にほめられても権威に傷付くようなほめ方だと、かえって怒りかねない。よって、お世辞や大げさなほめ言葉より “顔色がいいですね。最近何か嬉しいことでもありますか?”, “肌がとてもきれいです。スキンケアは難しいのですが、何か秘訣でもありますか?”のような, ささいなことをほめるのが望ましい。]

[品格のある対話]

いっぽう, 韓国語のことば遣いのマナー本では目上をほめてはいけないという言及は見られない。むしろ (27) を見ると, 目上であっても惜しまずほめることが勧められている。

ただし, 韓国語のことば遣いのマナー本でも目上をほめることの留意点が述べられており, (27) に目上の能力を評価するのではなく, 自分が受けた恩恵について話すことや, (28) にささいなことをほめるのが良いと述べられている。

(29) とにかく女性との会話では, 容姿に関するほめ言葉を使わないのが, 相手への気ばたらきにもなる。それよりも, 服装のセンス, 言葉づかい, しぐさなど, 当人の努力しだいでよくも悪くもなる点に注意を向けるようにするといひ。

[気ばたらき会話術]

(30) 칭찬은 어떻게 하는 것이 좋을까? 첫째, 그 사람의 외모를 칭찬하라.

[どうほめることがいいか？まず，その人の容姿をほめよう。]

[あっさり言う人]

(31) 너무 과한 칭찬이나 외모를 찬양하는 말은 주의해야 한다. “정말 미인이십니다, 회사에서 손꼽히시겠어요”, “발표 잘하는 능력자라고 소문이 자자하던데, 기대합니다” 같은 말은 자칫 성희롱으로 여겨지거나 상대방에게 부담을 줄 수 있다.

[大げさにほめるのと，容姿をほめたてることは注意しなければならない。 “本当に美人でいらっしゃいます，社内一番でしょうね”，“発表が上手だという評判を耳にしましたが，楽しみにしています” のような表現はえてして セクハラに思われたり，相手が重たく感じたりする。]

[話し方習慣]

そして，ほめる題材においても両言語のことば遣いのマナー本で違いが見られる。それは容姿をほめる場合であるが，日本語のことば遣いのマナー本は，(29) に女性の容姿をほめないのが配慮であるとしている。いっぽう，韓国語のことば遣いのマナー本は，(30) に容姿や外見をほめろという助言も見られるものの，(31) には相手に負担を与えたりセクハラに思われたりするため，容姿や外見のほめことばを注意しなければならないという文言も見られる。このような用例から，韓国語で容姿や外見をほめることに対する規範が変化しているのではないかと推測される。

6. 会話に関わる言語行動の規範

この節では会話に関わるものを見ていく。会話に関わる内容の全ての用例の中で日韓に相違が見られるのは，「話題」と「あいづち」に関するもののみであった。6.1 では会話の材料となる「話題」の選択について，6.2 では話しの相手との相互作用の「あいづち」について見る。

6.1. 会話の材料となる話題

円滑な会話のためには、天気や趣味など、当たり障りのない日常的な話題や共通の関心事を話題にするのは、両言語のことば遣いのマナー本に共通している。ところが、円満な対人関係のために避けるべき話題もある。どのような話題が避けるべきであるか、表1に、避けるべき話題と用例数を記す。

表1 避けるべき話題（数字は用例数）

	プライバシー	宗教	政治	応援チーム	自慢話	暗い話	下品話	計
日	14	6	4	3	1	1	1	30
韓	8	4	1	0	1	1	0	15
計	22	10	5	3	2	2	1	45

(32) まずは、どんな質問がタブーなのかを、はじめに押さえておこう。

- ①相手の具体的な属性に関する質問……職業，地位，経歴，学歴……etc。
- ②相手の思想・信条に関する質問……宗教，支持政党，最良のスポーツチーム……etc。
- ③相手の周辺環境に関する質問……資産，収入，家族構成，婚姻の有無……etc。

これら三つのカテゴリーに属する事柄は、相手が自己開示しない限り、こちらから葉掘り具体的に質問するのは避けなければならない。

[好印象]

プライバシーや宗教，政治に関する話，暗い話，自慢話が避けるべきというのは，両言語のことば遣いのマナー本に共通している。しかし(32)のように，自分が応援しているスポーツチームの話や下品な話しは，日本語のことば遣いのマナー本のみ避けるべき話題として

言及されている。表1を見ると、避けるべき話題のバラエティは日本語のことば遣いのマナー本により多く見られ、話題選択の制限が韓国語のことば遣いのマナー本より多いことが分かる。

表1の避けるべき話題の中でも、両言語のことば遣いのマナー本に最も多く挙げられるのは、プライバシーに関する話題である。ただし、プライベートなことがどのようなものであるかは、両言語のことば遣いのマナー本に違いが見られる。

(33) 女性に対して年齢の話がタブーなのは常識ですが、相手が男性でも初対面で年齢の話を持ち出すのは非常識です。

[大人のマナー]

(34) 첫 대면에서 여성의 나이나 결혼 여부를 묻는 것은 실례이며, 대화 중에 상대의 신체 사이즈, 신체적 약점, 수술경험, 금연, 경제상황, 부부생활 등에 대해서 질문하는 것도 실례이다.

[初対面で女性の年齢や結婚の可否を聞くのは失礼であり, 会話で相手の身体サイズ, 身体的な弱点, 手術経験, 給与, 経済状況, 夫婦生活などについて質問するのも失礼である。]

[現代社会とマナー]

プライバシーの典型的なことには年齢が挙げられるが、日本語のことば遣いのマナー本では(33)のように、女性はもちろん初対面の男性にも年齢を聞くのは非常識であるとされている。いっぽう、韓国語のマナー本では(34)では、女性に対する年齢の質問は失礼と言うものの、男性の年齢についての言及は見られない。

コリアラボ(2014)では、「初対面でも、「何歳ですか?」「役職についていますか?」「給料はいくらですか?」などと、年齢や職位、さらに収入など、日本人同士だったらよほど近い間柄でなければ失礼にあたることを聞かれることだ。ここにはもちろん相手と自分の立

場の優劣を確認したうえで、礼に則った言葉遣いや対応をしなければならないという儒教原則があるが、よく知ったうえで自分の領域に相手を引き入れられるかどうかという打算も働く」と述べられている。

このように、韓国では年齢的な上下関係はことば遣いの決め手となるため、相手の年齢を聞かざるを得ないことがある。しかし、日本語のことば遣いのマナー本では、年齢に関する質問はプライバシー侵害の話題になる。

(35) 「顔色が悪いね」は禁句。心臓に毛が生えていると言われる人でも、人間の心は意外にもろいのである。「決して、人に向かって顔色が悪いなどと言ってはならない」

〔最強の話し方〕

(36) 久し振りに会った知人のいった一言には不快感を禁じ得なかった。

「痩せましたね、大丈夫ですか」といったのである。

これは、私が痩せた事に病気の兆候を見たという発言に他ならない。私のことを心配してくれたことに対しては感謝をするが、人の感情に対する配慮が欠けている。

〔気くばり〕

また、(35) (36) を見ると、日本語のことば遣いのマナー本では顔色や痩せたことなどのように、健康状態に関しては触れていけないとしている。しかし、本調査資料の韓国語のことば遣いのマナー本では、このような言及は見当たらない。むしろ、韓国では相手への関心の表明として体調や健康状態を聞くことがよくある。体調や健康状態などのように、プライバシーに属する事柄の違いは接触場面において誤解や摩擦の要因になりかねない。

6.2. 相互作用のあいづち

コミュニケーションの基本は、自分が話すより相手の話をよく聴くことであり、相手の話をよく聴くためには適切な反応を示すこと、つまり、あいづちを打つ必要があるという。そして、あいづちは話の腰を折らないように良いタイミングを見計らって質問をするなど、興味や共感を示して打つというのは、両言語のことば遣いのマナー本に共通している。

(37) 그렇다면 맞장구의 사용 빈도는? 너무 빈번하게 많이 쓰면 오히려 상대방이 편하게 말을 할 수 없게 될 수 있으니 유의해야 한다.

[それではあいづちの使用頻度は?とても頻繁だと、かえって相手が気楽に話せなくなるので留意すべきである。]

[疎通の秘密]

(38) ‘질문하기’ 와 ‘말이나 마음을 되돌려 주기’ 를 잘 익혀 상대방과의 대화에 활용하고자 하는 사람은 다음의 한 가지 점에 주의해야 한다. 그것은 다름이 아니라 ‘회자의 이야기를 듣는 중에 이 두 기법을 너무 자주 남용하면 오히려 이야기의 호흡을 끊는 역효과가 나타날 수 있다는 것’ 이다.

그러니 상대방의 이야기를 잘 듣고자 하는 사람은 앞에서 이미 언급했던 대로 ‘잘 듣기의 기본은 상대방이 이야기할 때 입 다물고 조용히 있는 것’ 입을 먼저 명심하여 상대방이 이야기 할 때는 대부분의 시간을 침묵한다.

[‘質問すること’ と ‘言葉や気持ちを言い返すこと’ をよく学んで相手との会話に活かそうとすると、次のことに注意しなければならない。それは ‘話し手の話し中にこの二つを乱用すると、かえって話の流れが切れる逆効果になりかねない’ ということだ。

したがって、相手の話をよく聴こうとする人は、既に言及したとおり ‘よく聴くことの基本は、相手が話しているとき、黙って

静かにすること’ だというのを心掛け、相手が話しているときには大体の時間を沈黙する。]

[対話の達人]

(39) 하지만 대체로 말없이 다소곳이 앉아 이야기를 듣는 것이 예의라고 생각하는 우리나라 사람들에게는 또 다른 피드백이 필요하다. …생략… 그렇다고 해서 피드백이 너무 잦거나 독촉하는 듯한 느낌을 주어서는 곤란하다. 박자가 맞지 않으면 오히려 말하는 사람에게 부담을 줄 수 있다.

[ところが、大体無口で慎ましやかに座って話を聴くことが礼儀と思う我が国の人々にはまた別のフィードバックが必要である。…省略…だとして、フィードバックが多すぎたり、急かすような感じがしたりしては困る。タイミングが合わない、かえって話す人に負担になりかねない。]

[韓国式対話]

ところが、あいづちを打つ時の留意点は、両言語のことば遣いのマナー本に多少違いが見られる。まず、韓国語のことば遣いのマナー本では(37)～(39)を見ると、あいづちが多くならないように助言されている。あいづちの頻度が多いと、(37)のように相手が話せなくなったり、(38)のように話の腰が折られたりして会話の流れを妨げる要因になる。さらに(39)には、黙って静かにすることが上手な聴き方であり、無口で慎ましやかに聴くことが礼儀であると述べられている。

水谷(1993)では、あいづちの頻繁な使用は日本人の話し方の特徴であり、相手が話している間外国人が黙っていると、日本人が不安になると述べられている。韓国語のことば遣いのマナー本では、傾聴することが礼儀であると述べられているが、このようなことも接触場面における円滑なコミュニケーションを妨げる要因となりうる。

(40) 「はい」「ええ」と単調なあいづちが続くと、相手にも耳障りです。話題に応じてあいづちも変える必要があります。…省略…

話の区切りごとに、ひとつあいづちを打ちましょう。

[言い方・伝え方]

(41) 「そうなんですね」は大変よく使われる相槌ですが、これも結構引っかかるという人がいます。

「そうなんです」のことを私は「無感動相槌言葉」と呼んでいます。

「そうなんです」には、「そうなんです、知ってましたよ、そんなこと」「別の人から聞いてました。そうなんです、はいはい」という「受け流す」「相手を軽んじる」ニュアンスが含まれています。つまり、相手の言葉をスルーするための相槌なのです。「その話、もう結構です」という「打ち切りの合図」とも言えるでしょう。

[会話のしくじり]

(42) ポイントは、相手の会話の切れ目を見計らってタイミングをつかむことと、「なるほど」「ええ」といった肯定的な意味を持つ言葉を使うことです。

そうすれば、相手は、「この人は私の話を受け入れてくれている」と安心して、スムーズに話を進めることができるはずです。

[あの人が話す]

いっぽう、日本語のことば遣いのマナー本にはあいづちの頻度を注意する内容は見られない。それより、(40)のように話題に応じてあいづちを変えることや、(41)のようにいい響きにならないあいづちをしないこと、(42)のように肯定的な意味を持つあいづちを使うことなど、主にあいづちの表現に関する留意点が多い。

정혜전(2007)には、日本語母語話者が相手の話になづきながら「はい、はい」と言うため、それを頼み事の受け入れとして誤解して困ることがあるという言及がある。日本語のことば遣いのマナー本には肯定的な意味のあいづちを打つことが推奨されているが、これも接触場面において誤解の要因になりうる。

7. まとめ

日韓のことば遣いのマナー本を資料に用い、ある言語行動への遂行義務・回避義務とその必要性、あるいはその言語行動が対人関係に及ぼす影響が文面に表れている用例から、言語行動に対する両言語の規範意識を推定した。推定された両言語の言語行動規範を比較した結果、語、発話、会話に関わる各レベルで相違が見られ、表2にその詳細をまとめる。

まず、語レベルにおいては、日本語のことば遣いのマナー本では若者言葉が、韓国語のことば遣いのマナー本では方言が、話し手が否定的評価を受けるため、控えるべきことばとして挙げられていた。そして、役職名や「さん」と「ㄹ」のように、両言語に似ている呼称であっても使い方はやや異なっていた。また、韓国語のことば遣いのマナー本では、呼称の多用や明確な呼称の使用が推奨されていた。

発話レベルにおいては、日本語のことば遣いのマナー本では依頼の時に前置き表現を、断りの時に感謝表現をすることが推奨されていた。そして、目上の相手をほめないことや、女性の容姿をほめないことが、韓国語のことば遣いのマナー本の助言と異なっていた。

会話レベルにおいては、両言語のことば遣いのマナー本ともにプライバシーに関するのが避けるべき話題として最も多く挙げられていた。しかし、プライベートな事柄には違いがあり、日本語のことば遣いのマナー本では年齢や体調・健康状態はプライバシーに該当する話題であった。また、両言語のことば遣いのマナー本ともにあいづちの必要性を認めながらも、あいづちに関する留意点はやや異なっていた。日本語のことば遣いのマナー本ではあいづちを多様にすることや、肯

表2 日韓の言語行動規範の相違

語レベル	若者言葉	日	若者言葉の使用が否定的な評価を受ける
	方言	韓	方言の使用が否定的な評価を受ける
	呼称	日	役職名はそれ自体が敬称になる
			「さん」は目上にも使える
			呼称をするのであれば、名前を使う
		韓	「姓+씨」は年下・目下にもむやみに使わない
			役職名にさらに敬称の「님」をつける
呼称は多用するのが良い			
		明確な呼称を使う	
発話レベル	依頼	日	依頼の前に前置き表現をする
		韓	依頼は対人関係を深める
	断り	日	断りに時は感謝を述べる
	ほめ	日	目上をほめてはいけない
			女性の容姿はほめない
		韓	相手が目上でもほめることは良い
容姿や外見をほめることの規範が変化している			
会話レベル	話題	日	避けるべき話題のバラエティが多い
			年齢は聞かない
			健康状態に触れない
		韓	初対面でも年齢を聞く
	あいづち	日	あいづちの表現に関する留意点が多い
		韓	あいづちが多いことに注意

定的な意味のあいづちを使うことなど、あいづちの表現に関する留意点が多かった。いっぽう、韓国語のことば遣いのマナー本では傾聴することが礼儀であるため、あいづちが多すぎないことが推奨されており、あいづちの頻度が留意点とされていた。

以上、ことば遣いのマナー本から推定した両言語の言語行動規範の違いを見た。これらは接触場面で相手に違和感や不快感を与え、潜在

的な誤解や摩擦の要因になりうると考えられる。

ことば遣いのマナー本は比較的意識化されやすい言語行動規範を推定することができ、そこから接触場面における潜在的な誤解や摩擦となりうる言語事象を探った。

しかし、両言語の相違が誤解や摩擦の要因となる言語事象は、意識化されにくいところにも潜んでいる。今後はことば遣いのマナー本のように言語行動をメ的に扱うものではない資料を用い、両言語の相違が接触場面で誤解や摩擦の要因になるが、それが意識されにくい言語事象を見出すことを課題としたい。

【調査資料】

- 杉山美奈子（2005）『話し方のマナーとコツ』学習研究社〔話し方〕
- 齋藤茂太（2006）『「10聞いて」「3話す」人に好かれる会話術』新講社〔会話術〕
- 渋谷昌三（2006）『好感度200%UPの話し方』ぶんか社〔好感度200%〕
- 古谷治子（2006）『人に好かれるものの言い方・伝え方のルールとマナー』日本実業出版社〔言い方・伝え方〕
- 酒井順子（2007）『黒いマナー』文藝春秋〔マナー〕
- 山根基世（2008）『これで解決!好感度を上げる話し方』主婦の友社〔これで解決〕
- 西出博子（2009）『できる女性のビジネスマナー』ナツメ社〔ビジネスマナー〕
- 和田裕美（2009）『一言変えるだけで!もっと人に好かれる話し方』大和書房〔一言変える〕
- 人生の達人研究会（2011）『口ベタでも気持ちが伝わる話し方』河出書房新社〔口ベタ〕
- 野口敏（2011）『一瞬で人に好かれる話し方 —好感度アップ70のルール—』学研パブリッシング〔好感度アップ〕
- 神岡真司（2012）『好印象を与える話し方のルール』日本文芸社〔好印象〕
- 山田敏弘（2013）『その一言が余計です —日本語の「正しさ」を問う—』〔その一言が余計〕筑摩書房
- 植西聰（2014）『なぜ、あの人が話すとうまくいくのか?』青春出版社〔あの人が話すと〕
- 樺亘純（2014）『カチンとくる話し方,好かれる話し方』青春出版〔カチンとくる〕
- 渡瀬謙（2014）『朝5分!読むだけで「会話力」がグッと上がる本』永岡書店〔会話力〕
- 梶原しげる（2016）『会話のしくじり —失敗から学ぶ反面教師の会話学—』SB新

書〔会話のしくじり〕

- 川北義則 (2016) 『人を惹きつける大人のものの言い方・話し方』 PHP研究所〔言い方・話し方〕
- 高城幸司 (2016) 『やってはいけない! 職場の作法 —コミュニケーション・マナーから考える—』 筑摩新書〔コミュニケーションマナー〕
- 渡辺由佳 (2016) 『好かれる人が絶対しないモノの言い方』 日本実業出版社〔絶対しないモノの言い方〕
- PHPスペシャル編集部 (2017) 『一緒にいて楽しい人, 感じがいい人の話し方』 PHP研究所〔楽しい人, 感じがいい人〕
- 福田健 (2017) 『最強の話し方』 KKロングセラーズ〔最強の話し方〕
- 島田一男 (2018) 『気ばたらき会話術 一人に好かれる話し方—』 ゴマブックス〔気ばたらき会話術〕
- ベスト・ライフ・ネットワーク (2018) 『もっと愛される「大人のマナー・常識」辞典』 大和書房〔大人のマナー〕
- 山崎武也 (2019) 『気くばりがうまい人のものの言い方』 三笠書房〔気くばり〕
- 이정숙 (2003) 『한국형 대화의 기술 (韓國式對話のテクニック)』 더난출판〔韓國式對話〕
- 민영옥 (2005) 『대화의 달인 (對話의 達人)』 무한〔對話의 達人〕
- 안미현 (2005) 『1% 비즈니스 리더를 위한 고품격 대화법 55 (1%ビジネスリーダーのための上品な對話のルール55)』 다산북스〔上品な對話〕
- 안은표 (2005) 『나의 가치를 높여주는 화술 (自分の価値を上げる話術)』 시아출판사〔話術〕
- 함선희 (2005) 『BIZ WOMAN STORY 승승장구 한과장의 커뮤니케이션 파워 (BIZ WOMAN STORY 勝つハン課長のコミュニケーションパワー)』 북폴리오〔コミュニケーションパワー〕
- 김승용 (2006) 『유능한 사람은 이것이 다르다. 말 (有能な人はこれが違う, ことば)』 매월당〔これが違う〕
- 김현정 (2006) 『30대에 꼭 알아야 할 대화법 (30代に必ず知っておくべき對話のルール)』 원앤원북스〔30代〕
- 이정학·장태선·박명옥 (2006) 『현대사회와 매너 (現代社会とマナー)』 기문사〔現代社会とマナー〕
- 허은아 (2006) 『매너가 경쟁력이다 (競争力のあるマナー)』 아라크네〔競争力〕
- 정혜진 (2007) 『행복을 사로잡는 말 한마디 (幸せをつかむ一言)』 한솔아카데미〔一言〕
- 박양신 (2008) 『YES를 이끌어내는 직장인을 위한 말 잘하는 법 (YESへ導く社会人のためのうまい話し方)』 새빛에듀넷〔うまい話し方〕

- 이수연 (2009) 『똑똑한 여자보다 매너 좋은 여자 (스마트な女性よりマナーのいい女性)』 위즈덤하우스 [マナーのいい女性]
- 장은영 (2009) 『긍정의 대화법 (肯定的な対話のルール)』 위즈덤하우스 [肯定的な対話]
- 조항범 (2009) 『말이 인격이다 (こどばが人格だ)』 위즈덤하우스 [こどばが人格だ]
- 강정훈 (2010) 『CEO를 감동시키는 소통의 비밀 (CEOを感動させる疎通の秘密)』 미래와 경영 [疎通の秘密]
- 김재화 (2010) 『KISS하듯 말하라 (KISSするように話せ)』 청어 [KISSするように話せ]
- 김옥림 (2011) 『화끈하게 말하는 사람, 속 터지게 말하는 사람 (あっさり言う人, じれったく言う人)』 팬덤박스 [あっさり言う人]
- 고정욱 (2017) 『고정욱의 말하기 수업 (コ・ジョンウクの話し方の授業)』 애플박스 [話し方の授業]
- 김범준 (2017) 『모든 인간관계는 말투에서 시작된다 (全ての人間関係は話し方から始まる)』 위즈덤하우스 [人間関係は話し方]
- 한창욱 (2018) 『품격 있는 대화 (品格のある対話)』 미투스 [品格のある対話]
- 김모란 (2019) 『단숨에 호감형 인간이 되는 매너의 기술 (一気に好感型人間になるマナーのテクニック)』 알에이치코리아 [마너의 테크닉]
- 김주우 (2019) 『말습관 트레이닝 (話し方習慣トレーニング)』 길벗이저북 [話し方習慣]

【参考文献】

- 沖裕子・姜錫祐・趙華敏・西尾純二 (2018) 「依頼談話の発想と表現 一異文化接触問題の解決をめざした日韓中対照談話論一」 『社会言語科学』 21-1 社会言語科学会 p.80-95
- 尾崎喜光 (1995) 「発話もたらす対人効果の研究 (1) —投書におけるメタコミュニケーション—」 『研究報告集』 16 国立国語研究所 p.1-31
- 尾崎喜光 (1996) 「発話もたらす対人効果の研究 (2) —発話機能を軸とした分析—」 『研究報告集』 17 国立国語研究所 p.57-92
- コリアラボ (2014) 『日本人と韓国人のおどろきマナーブック』 成美堂出版
- 西尾純二 (2019) 「待遇場面による語の選択」 『シリーズ日本語の語彙7 現代の語彙 一男女平等の時代』 朝倉書店 p.18-31
- 西尾純二 (2000) 「言語行動における遂行義務と回避義務」 『阪大日本語研究』 12 大阪大学文学部日本語学講座 p.57-69
- 増田祥子 (2009) 「言葉遣いのマナー本から見る言語行動規範の性差」 『日本語用

- 論学会大会発表論文集』6 日本語用論学会事務局 p.309-312
- 増田祥子 (2011) 「女性向けのことば遣いのマナー本に見る言語規範とその変化」
『言語文化学研究』6 大阪府立大学人間社会学部言語文化学科 p.53-69
- 水谷信子 (1993) 「共話から対話へ」『日本語学』12-4 明治書院 p.4-10

(大阪府立大学大学院人間社会学研究科 博士後期課程在学)